

【背景（関係のデータ、これまでの主なご意見等）】

- 不登校児童生徒数が義務教育段階において近年大幅に増加。高校段階においては不登校・中途退学率は概ね横ばいで推移しているが、私立の通信制課程に在籍する生徒数が近年大幅に増加。一方、私立の広域通信制高校の中には、違法・不適切な学校運営や教育活動が指摘されているところもあり、この質確保・向上を引き続き図っていくことが必要。また、公立の通信制高校については、特に経済的な面でも課題を抱える生徒にとって重要であり、一層の魅力向上・機能強化を図っていくことが必要。
- 高校は、生徒が人間関係を構築し、社会性を育む上で重要な場所。通信制課程だけでなく、定時制課程においても不登校経験や特別な支援を必要とする生徒が多く在籍しており、勤労青年向けという制度の前提が変化している定時制・通信制課程について、改めてその在り方を考えることが必要。
- ICT環境については、令和6年度までに高校の全学年で1人1台環境整備が完了予定であり、同時双方向型のメディア活用も普及。そのような状況も踏まえつつ、多様な生徒に対してきめ細かくサポートし、どの課程にあっても、それぞれの生徒の状況に応じた個別最適な学び・協働的な学びを実現できるようにしていくことが重要。

【論点例】

- 全日制課程や定時制課程において、多様な課題を抱える生徒を受け入れ、多様な学びを提供していくための方策として、どのような取組がより一層必要と考えられるか。
- 通信制課程が多様な課題を抱える生徒の学びのセーフティネットとしての機能を維持しつつ、生徒の社会性を育むための方策として、どのような取組がより一層必要と考えられるか。また、私立の広域通信制高校については先日の調査研究協力者会議の審議まとめを踏まえ、引き続き質確保・向上を図っていくことが必要であるが、公立の通信制高校の魅力向上・機能強化に向けては、今後どのような方策を講じるべきか。
- 生徒が地理的状况や各学校・課程の枠に関わらず、多様な学びを受けられるようにするための方策として、例えば学校間連携や課程間併修を推進することが考えられるが、そのためにどのような取組が必要と考えられるか。
- その他、全日制・定時制・通信制の望ましい在り方について、どのように考えるか。